

令和6年度第2回 刈谷市多文化共生推進委員会
議事録

■ 日 時 : 令和7年3月14日(金) 午後1時30分～3時00分

■ 場 所 : 刈谷市役所7階702会議室

■ 出席者

所 属	氏 名
東京外国語大学 准教授	小 島 祥 美
国立大学法人愛知教育大学 国際企画課	高 木 遠 慧
刈谷市教育委員会 学校教育課	野々目 将 之
愛知県国際交流協会 交流共生課	杉 山 美 紀
刈谷市国際交流協会	西 村 日出幸
株式会社デンソー 総務部刈谷総務人事室	北 野 達 生
S B K	川 口 ビバリ
V N K	チャン バン トン
Oasis Brasil	小 池 ソニア
市民委員	清 水 玲
市民委員	安 田 寛 二
刈谷市 市民活動部 部長	宮 田 孝 裕

■ 欠席者

一ツ木自治会	及 川 啓 太
--------	---------

■ 事務局

市民活動部 協働推進監兼市民協働課長	渡 部 貴美子
市民活動部 市民協働課 課長補佐兼協働推進係長	加 藤 史 彦

市民活動部 市民協働課 協働推進係 主任主査	眞 野 浩 志
市民活動部 市民協働課 協働推進係 主事	木 下 和 希

■ 配付資料

次第、委員名簿

【資料】令和6年度 第2回 多文化共生推進委員会

【別添1】外国人とのコミュニケーションでやさしい日本語を活用するための
セルフチェックの設問

【別添2】外国人市民の困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷

【別添3】おすすめの情報サイト教えます

【別添4】KARIYA GLOCAL LETTER

■ 議事録

1. 開会

- ◇ 出欠席者の確認、配付資料の確認
- ◇ 委員長あいさつ

2. 議題

(1) 第2次刈谷市多文化共生推進計画の重点協働プロジェクトの進捗について

- ◇事務局が資料を基に説明。
- ◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委 員：市民向けのやさしい日本語の周知は重要な取組であると思う。今年度は、イベントに参加してやさしい日本語を広報したということであるが、市が実施している出前講座のメニューの1つとする、または自治会長に対する研修実施という方法も検討してはどうか。

事 務 局：出前講座のメニューの1つとする方向で考えたい。また、やさしい日本語に関する内容を自治会長に対する研修内容の候補の1つとして検討

したい。

委員：イベントなどの際にやさしい日本語の広報をしているということだが、そういったところに来るのは、国際交流や多文化共生に関心がある人がほとんどではないか。図書館など市民がよく立ち寄る公的機関にやさしい日本語に関する掲示を取り入れてはどうか。

事務局：様々な公的施設があり、施設ごとに利用する市民に対して様々なサービスや取組を実施している。サービスや取組は優先順位をつけながら効果的なものから実施しているので、やさしい日本語に関する取組を各施設で実施できるかどうかについては、各施設を所管する他部署との調整が必要である。

委員長：市民の目に触れるところにそういった掲示があるというのは効果的だと思う。

委員：ワールド・スマイル・ガーデンツツ木や輪〜るど・ビレッジ小垣江には、小・中学生などの児童・生徒もある程度来ているのか。

事務局：ワールド・スマイル・ガーデンツツ木には、近くにある雁が音中学校の生徒が多く参加してくれている。また、輪〜るど・ビレッジ小垣江は、まだまだ参加者が少ないが、外国人の高校生がプランター菜園での収穫に参加してくれた。また令和4年度（2022年度）に小垣江市民館で地域の外国人と日本人による交流イベントを実施した際には、外国人も含めて多くの子どもが参加してくれた。子どもが参加してくれると一緒に保護者も参加してくれることが期待できる。

委員：外国人児童への学習支援などを行っているスリーエスという団体が刈谷にはあるので、ワールド・スマイル・ガーデンツツ木や輪〜るど・ビレッジ小垣江もスリーエスと連携できると児童・生徒の参加が増えるの

ではないか。

事務局：輪〜るど・ビレッジ小垣江の中心メンバーの中には、スリーエスの中心メンバーの方もおり、すでに輪〜るど・ビレッジ小垣江の活動に外国籍の子どもやその保護者をその方が誘ってくれている。それにより輪〜るど・ビレッジ小垣江の活動に参加していただいている外国籍の子どもやその保護者もいる。

委員：「外国人市民のための困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷（案）」は、翻訳を予定しているということだが、どういった言語に翻訳するのか？また、市のホームページへ掲載する予定があるか？

事務局：英語、ベトナム語、ポルトガル語への翻訳を予定している。本市に人口が多いフィリピン国籍、ベトナム国籍、ブラジル国籍の人への相談に役立てたいという考えである。市のホームページへは、掲載予定である。

委員：愛知教育大学のホームページも更新を考えている。各公的機関のホームページの国際交流・多文化共生のページへのリンクも掲載していきたいと思っており、まずは刈谷市のホームページへのリンクを掲載したいと考えている。

委員：「外国人市民のための困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷（案）」はとても役立つ内容が掲載されていると思う。他自治体へも情報を共有してはどうか。

事務局：他自治体への発信も考えていきたい。

委員：「外国人市民のための困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷（案）」も「【別添3】おすすめの情報サイト教えます」のチラシと同様に市民課で配布してはどうか。

事務局：「外国人市民のための困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷（案）」は、長く刈谷に住んでおり、日本での生活に慣れているような人、相談を受ける側の外国人向けに作成したものである。そのため、全ての転入してきた外国人へ配布することは考えていない。また、「【別添 3】おすすめの情報サイト教えます」のチラシには、各外国人コミュニティの SNS へのリンク（QR コード）の他に、刈谷市のホームページ内の多文化共生のページへのリンク（QR コード）も掲載する。そこからホームページ上で「外国人市民のための困りごと相談つなぎ方ガイド in 刈谷（案）」を見ていただくことは可能である。第 2 次刈谷市多文化共生推進計画には、外国人市民ウェルカムパック（外国人が転入した際に配布する案内資料一式）の配布を取組の 1 つに挙げているが、まずは「【別添 3】おすすめの情報サイト教えます」のチラシの配布を考えている。将来的にも紙資料をたくさん配布するよりは、チラシにホームページ等へのリンク（QR コード）を掲載し、それを配布することで、ホームページ上などで情報が見られるようにすることを考えている。理由としては、その方が配布した後に内容を更新した場合でも、ホームページを更新することで最新の情報を見ることができるとためである。

委員長：ワールド・スタディ講座は、学校からの依頼に対して、市が外国人講師や専門コーディネーターなどを手配して、多文化共生や国際交流に関する出前講座を実施するものということであるが、外国人児童、生徒の保護者に参加してもらい、活躍を紹介するということにはできないか。

委員：児童、生徒に対して平等に対応する必要がある。外国人児童、生徒の保護者というだけで、活躍を紹介するのは、特別扱いになってしまうので適切ではない。外国人児童、生徒の保護者が、例えばワールド・スマイル・ガーデンツ木に参加しているということであれば、多文化共生の活動に参加する外国人として活躍を紹介することはできると考える。しかし、そういったことは、総合的な学習の時間に実施することになると想定するが、総合的な学習の時間にどういった内容を実施するのかは、

教育委員会で決めるのではなく、各学校で担当する教師が決める。そのため、同じ内容を継続して実施し続けることは難しいと考える。

委員長：ぜひできる範囲で、外国人児童、生徒の保護者の活躍を紹介することも検討してほしい。外国人の方は日本では支援されることが多いという印象を受けるかもしれないが、活躍しているところも取り上げることができる、とてもよいと思う。

(2) 第2次刈谷市多文化共生推進計画に関する令和7年度の取組予定について

◇事務局が資料を基に説明。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員：ワールド・スマイル・ガーデンーツ木で栽培した野菜などを提供できる場があるとよいと考えるが、そういったところはあるか。

事務局：ワールド・スマイル・ガーデンーツ木で栽培した野菜は、収穫に参加した人で分け合っている。また、収穫した野菜で作った料理を、参加者がSNSで発信している。先日は、参加者が収穫した野菜で作った料理を、テレビ番組の多文化共生に関するコーナーに投稿して、放送されたということもある。輪〜るど・ビレッジ小垣江においても、参加者が収穫した野菜を市民館で料理して、食べながら交流するというところを行った。

ワールド・スマイル・ガーデンーツ木では、合同作業を基本は月に1回、夏場は月に2回実施しているが、合同作業日以外に実施する草取りなどの作業を中心となる数人のメンバーで担っており、作業の負担がそういった人に偏っているという課題もある。

委員長：他自治体で関わった事例であるが、ブラジルの定番野菜であるケールを育てて、参加者が交流しながら食べるといった取組があった。ワールド・スマイル・ガーデンーツ木で育てた野菜を多文化交流フェスタなど

のイベントで試食するというのもおもしろいのではないか。

委員：今年度、多文化交流フェスタに、ワールド・スマイル・ガーデンツ木も出展していたが、野菜の展示や試食はなかった。ワールド・スマイル・ガーデンツ木では、ベトナムの定番野菜であるパクチーや中国の定番野菜である空心菜も栽培している。そういった野菜やその料理レシピを多文化交流フェスタで配ってもおもしろいかもかもしれない。

委員：外国人に伝わるコミュニケーションプロジェクトに取り組んでいるということであるが、刈谷市から外国人市民に一方的に伝えているという印象を受ける。コミュニケーションは双方向的であることが望ましいと考える。刈谷市では、外国人市民はどういった場面でコミュニケーションに困っていると考えているか。そこに焦点をあてて、支援するのがよいのではないか。

委員：困ることが多いのは、病院での診察などの際のコミュニケーションである。

事務局：困ることが多い場面は、病院や災害時など、様々聞いている。国際交流協会において、生活日本語教室を開催しており、そこでは病院、災害時、救急、ゴミ出しなど、生活に密接に関わる様々な場面などにおけるコミュニケーションに焦点をあてた日本語を学ぶ取組を行っている。

委員：「いろどり」という日本語教材は、病院で使う日本語も取り上げている。そういった教材も活用するとよいのではないか。

委員：「【別添3】おすすめの情報サイト教えます」のチラシの裏面に外国人相談員のことや教育・ごみ出し・災害時などに役立つ情報を掲載するとよいのではないか。教育の分野に関しては愛知教育大学が作成したガイドを掲載してはどうか。

事務局：そういった情報の掲載も今後、考えていきたい。

委員長：「【別添3】おすすめの情報サイト教えます」のチラシは、カラー印刷したものを配布するのか？

事務局：色紙に白黒印刷したものを配布する予定である。ホームページに掲載したものはカラーで見ることができる。

委員長：外国人市民が困った時に必要とする情報が提供できるようになっていくとよいと思う。刈谷市在住の外国人の年齢や在留資格なども踏まえてどういった情報が必要か考えるとよい。

委員：アジア・アジアパラ競技大会について、留学生にボランティアとして参加してほしいという話があった。刈谷市のスポーツ課と市民協働課が連携して取り組んでいるとのことである。

委員：日本語教室については、初期日本語教室「はなそう にほんご」という教室を国際交流協会で実施しているということであるが、日本語教室の取組は拡充していくようなことも考えているか。

事務局：来年度については、特別拡充ということはないが、「はなそう にほんご」は、前期・後期に分けて、2期実施される予定である。また、国際交流協会親善ボランティア日本語支援グループによる日本語教室も引き続き実施される予定である。

委員：学校現場においては、日本語が分からない児童・生徒向けのプレスクールという教室を実施している。また、ポルトガル語、タガログ語、中国語、ベトナム語の4言語に対応できる語学指導員が各学校を巡回しており、母語による相談や日本語指導を行っている。プレスクールは実施している学校に限られるので、小学生は家から実施している学校までの

距離が遠いことが理由で、参加できないということがあり、課題だと考えている。

委員：市内の学校において、ワールド・スマイル・ガーデンーツ木や輪～るど・ビレッジ小垣江などに関係する多文化共生の取組を行うことはできないか。

事務局：今年度は、ワールド・スタディ講座として、ワールド・スマイル・ガーデンーツ木の代表である及川委員を講師に迎え、地域の多文化共生を考える講座を市内の高校で実施している。また、市内中学校において、フィリピン人コミュニティ「SBK」の代表である川口委員も多文化共生に関する講義に参画している。

委員：外国人生徒は、日本人生徒と比較して進学率に違いがあるか。

委員：幼い頃に日本に来たことで、日本語が話せる外国人生徒は、日本人生徒と比較しても進学率はあまり変わらない。市内には語学指導員が充実している高校もあり、外国人生徒が進学しやすい傾向にある。

3. その他

◇各委員が最近の多文化共生・国際交流の関する活動状況などについて報告。

委員；フィリピン人コミュニティ「SBK」は、フィリピンの文化紹介やイベント参加など、刈谷市外の名古屋市などでも活動している。文化交流イベントの際は、フィリピンから政府の要人に来てもらうこともある。

委員：ベトナム人コミュニティ「VNK」として、子ども達のダンスを市内外のイベントなどで披露する活動をしている。また、今年度は中秋節を祝うイベントをミササガパークで開催し、ベトナム人を中心に多くの地域住民が参加してくれて盛り上がった。今後も中秋節や旧正月（テト）を祝

うイベントを行っていききたい。

委員：輪～るど・ビレッジ小垣江や外国籍の子どもに日本語を教えるボランティア団体「スリーエス」で活動している。輪～るど・ビレッジ小垣江はこれから活動を拡充していく予定である。スリーエスでは週2回、活動に参加しており、そこには市内外の外国人の子どもが学習に来ている。どちらも楽しく活動に参加できている。

また、以前に貧困層の底上げを目的に個人で、バングラデシュに大学を創立したので、その運営に関することも行っている。今後は保健センターを創立することも考えている。バングラデシュでは、牛乳の衛生管理が十分にできておらず、たくさん廃棄されているので、廃棄される前の牛乳を活用して粉ミルクを作るということに取り組みたいと考えている。

委員：最近育児に忙しくて、国際交流や多文化共生の活動には参加できていない。外国人の子育て世代は、周りに交流できる人がいない場合もあるのではないかと思う。そういう人が気分転換に行って、様々な人と交流できる場があるとよいと思う。

委員長：子育てサロンのようなところがあるとよいと思うが、刈谷市内にもあるか。

事務局：刈谷市内にもある。

委員：日本国内には外国人がたくさん訪れている文化的な観光地がある。刈谷市の歴史博物館などにも、外国人が刈谷の歴史に興味を持って、訪れてくれるとよいと思う。そのための広報も考えていくとよい。大名行列などの文化的・歴史的なイベントにおいても、担い手がいないという課題を聞いているので、外国人の方にも興味を持ってもらって、参加してもらえるようになるとよいと思う。

委員：国際交流活動をやりたいという社員は多くいると考えるので、そういった潜在意識を持った社員が行動に移せるような環境を整えることができるとよいと思う。そのための1つの取組として、平日においてもそういった活動に参加しやすくなることを狙いとして、ボランティア休暇制度を創設した。

委員：多文化共生、国際交流の取組を行うにあたり、広報は継続して課題となっている。国際交流協会では、公式LINEを立ち上げて、それを活用した広報をこれから実施する予定である。

委員：愛知県国際交流協会は、これまで多文化共生に関する取組が多く、国際交流に関する取組は少なかったが、最近少しずつ増えてきた。これまで自分は、教育に関する分野に多く関わってきた。外国人児童・生徒の進路相談に関する手引きや相談に関するガイドブックも作成している。

委員：高校進学に関しては、外国籍の生徒向けの進路相談会を6月に実施している。4言語に対応しており、130人ぐらいに参加していただいている。高校に既に進学している外国籍の高校生もアドバイスに来てくれる。

委員：最近では、留学生の受入、ホームページの充実、日本人学生の国際意識を高めることに取り組んでいる。近年、日本人は日本を出て海外に行くことが少なくなり、国際化という点では停滞していると感じている。また、カンボジアの健康教育に関心を持っている。

委員：最近では、ブラジル人コミュニティ「Oasis Brasil」として、SNSによる情報発信に取り組んでいる。

◇事務局から連絡事項を伝え、委員長が閉会した。